

御茶壺道中その八

内藤 恭 義

茶壺道中の構成

茶壺道中はどんな行列だったのでしょうか。

九月号では、運ばれる茶壺の数は三個と記しましたが、これはあくまでお通壺として運ばれる公式の茶壺の数です。この他に、茶壺道中に便乗して、かなりたくさん茶壺が運ばれていきました。

甲府町年寄坂田家に残っている、元禄二年（一六八九）の奈良井宿からの回状で見ますと、道中の構成が判ります。

それによりますと、徒士頭付



宇治御茶壺の巻の内 御茶壺出立の図 その4 (国会図書館蔵)

の人数四十三人、茶道頭・茶道衆の人数二十九人、奉行付十六人の宿が手配されています。また荷物としては、御壺四十四荷、長持三、乗物駕籠三、分持十六が記録され、馬は乗懸と軽尻合せて六十疋、から駕籠も二つ記録されています。茶壺をはじめ、長持や分持には百六十二人の雇われ人足がつき、総勢二百五十人の、かなり大がかりな行列となります。

茶壺の荷の中には何個の茶壺が入っていたか判りませんが、仮に一荷一壺としても四十四壺送られたことになり、公式に運ばれるお通壺の数を上回ります。

これはお通茶壺以外に、本丸や西の丸御用、禁裏、仙洞進献用茶壺、日光、久能、増上寺、寛永寺等の霊屋進献用、將軍妻妾や大奥御用の茶壺までがこの行列に便乗して運ばれたからです。

もっとも、江戸城から運び出される茶壺は、お通茶壺（御物御茶壺とも言う）の外はごく少数で、大概は現地で信楽焼の茶壺が調達され、帰路は四十挺を越える茶壺駕籠の大行列となったのです。

大規模な記録としては、享保二年の制度改革で茶壺道中に厳しい制度が加えられているはずの弘化二年（一八四五）の『宇治茶壺記』

に一一〇壺もの茶詰め記録があります。また人数も元禄十四年（一七〇一）岡崎宿の記録では往路四〇五人、帰路五八四人とありますから茶壺の数も行列の人数も年によって様々であったことが判ります。

この岡崎の記録では、武士の人数は往復ともにわずか二十三人しか記録されていませんから、大行列ではあったても、大名行列のように何本もの槍や長刀、刀、鉄砲を携えた徒士侍でがちり警護された大名行列とは性格が大きく違います。

商家資料館特別展

「史料に見る都留の俳諧」

天和二年の江戸大火によって家を焼かれた松尾芭蕉は、約半年間谷村に逗留し、自ら蕉風俳句への開眼を果たすと共に、多くの足跡を残しました。そのため、江戸時代の終わりに、市内でも戸沢村の吉甫をはじめ蕉風の系譜に連なる多くの俳人の活躍によって、俳諧の隆盛をむかえました。

このような江戸時代の都留の俳諧を物語る史料を展示する特別展を開催します。

期日 11月1日～29日

(月・水・金休館)

時間 午前10時～午後4時

入館 無料

問合せ 都留市商家資料館

☎(43)9416

社会教育課文化振興係

秋の一日を市文化祭へ

11月11日・12日 午前9時～午後5時
11月13日 午前9時～午後4時30分

歌作品展、詩(小・中学生作品)品展
ふるさと会館
絵画展
小・中学生絵画展
大会部門(文化会館)
合唱祭
11月3日 午後1時
囲碁大会
11月3日 午前9時
茶会
11月3日 午前9時
詩吟大会
11月6日 午前9時
映画鑑賞会
11月13日 午前9時
ふるさと会館(歴史探訪)
11月3日 午前9時集合
富士女性センター(俳句大会)
11月5日 午後1時

寄付(敬称略)

老人福祉のために
・チャリティー新富士歌謡協会
実行委員長 若松富雄 六万三五八〇円

都留福祉作業所のために
・河村愛子 五万円
老人保健施設つるに
・住友生命労働組合 山梨支部
執行委員長 小田切昇
リクライニング車椅子一台
文化ホール建設のために

花寿希 代表 黒澤布差子 五万円
・やなぎ会 代表 岸川康代 三万円
・都留市歌謡連盟 会長 勝俣茂雄 八万円

ふるさとの
11月
25日 天神講 市内各地
12月1日 高尾山例祭 高尾町